

2

景観づくりの目標

1. 景観づくりの基本的な考え方

1) 基本理念

本市の中心市街地の歴史的・文化的資源と市の8割を占める山々と山裾に広がるりんご畑や、浅瀬石川の清流、広大で豊かな田園風景は、市民の生活や暮らし・生業の基礎であり、今後も大切にすべき共有財産です。

今後も、豊かで明るく活力に満ちた、住みよいまちづくりを基本に、歴史と文化を大切にし、自然の恵みを受けながら、心豊かに安心してらせる地域社会の実現を目指していきます。また、住民にとっての真の住みよさや豊かさを再確認し、黒石市固有の自然や歴史・文化に彩られ、新しいものとの調和や個性や資源を活かした地域らしい景観に取組み、住み続けられる環境をもった「あずましの里づくり」を基本理念とします。

■ 基本理念

「あずましの里づくり」

自然・歴史・文化に彩られ

住み続けたい「わたしたちのまち 黒石」

2) 景観づくりの意義

あずましの里づくりは、黒石に住まう人、働く人の理解と様々な活動や取り組みによって形づくられるものです。

黒石の景観をより良いものとし、住み続けられる環境をもった「あずましの里づくり」のことを、本計画では「景観づくり」と呼び、基本理念を実現するための景観づくりに取り組む意義は次のとおりです。

○黒石らしさの価値を高めます

景観づくりは、黒石固有の自然、歴史、文化等と市民の暮らしや社会経済活動等との調和により形成されるものです。地域ごとの個性や特性を活かした風格、活力、にぎわい、落ち着いたある景観づくりを進めることで、黒石らしさの価値の向上につながるものです。

○地域への愛着や誇りを醸成します

景観づくりは、地域の暮らしやコミュニティなどの様々な特性が目に見える形として現れるものです。景観を知り、学ぶことを通じて、黒石の景観的な価値を共有することにより、黒石に住みたい、再び訪れたいと感じさせ、地域への愛着や誇りが醸成されるものです。

○安全で快適な生活環境を創造します

景観づくりは、豊かな自然環境の形成と安心して暮らせる地域社会の実現に不可欠なものです。身近な景観の質的向上を図ることにより、暮らしに潤いを与えるとともに、安全で快適な生活環境を創り出します。

○観光・交流の振興による活力の再生・向上を図ります

景観づくりは、観光や地域間の交流の促進に大きな役割を担うものであり、黒石らしい歴史的なまち並みの形成は、観光客の増加や商店街の集客力の向上等につながり、まちの活力の再生や向上に寄与します。

2. 景観づくりの基本目標

本市の景観特性や基本理念を踏まえ、景観づくりで実現を目指す基本目標として、次の5つを掲げます。

●基本目標1：くらし・生業の基礎である自然・田園環境を守り、育む景観づくり

八甲田の山並みや浅瀬石川は、本市の景観の骨格を形成するとともに、そこから得られる清廉な空気、湧水などの水辺は、市民のくらしの基礎であり、農業や酒造業等の生業を支える貴重な共有財産です。これからも、自然・田園環境を守り、育てることで、黒石全体の景観づくりに活用することを目指します。

●基本目標2：風土や四季を大切にす、彩り豊かな景観づくり

本市は豪雪地帯という厳しい気象条件により、こみせの成立や集落の形成、雪国としての住まい方を育んできました。また、満開の桜、清らかな水の流れ、黄金色に輝く田園、いで湯の湯煙、りんごと雪の鮮やかなコントラストなどは、我々の感性を豊かにするとともに、日常生活に彩りを与えてくれます。このような風土や四季に寄り添い、そこから生み出されるまちや自然の表情を感じながら、彩り豊かな景観づくりを目指します。

●基本目標3：生業を振興し、伝統や風格を生かした、活力ある景観づくり

本市の景観の基礎である農業を振興するとともに、中心市街地や黒石温泉郷等では、長い時を経て形成された伝統や風格、歴史的な資源を生かし、魅力を高めることで人々の交流を活性化させ、活力ある景観づくりを目指します。

●基本目標4：地域の成り立ちや資源を生かし、身近な生活環境を豊かにする景観づくり

市民が住み続けるためには、住宅地や集落の生活環境の質を高めることが大切です。そのため、地域ごとに見られる寺社、緑地、水辺などの資源を生かし、地域の景観と調和した建築物の誘導、緑化の推進、全ての人が使いやすい施設整備等を進め、身近な生活環境を豊かにする景観づくりを目指します。

●基本目標5：共有、参加、協働により、みんなで積み重ねる景観づくり

市民、事業者、行政が、良好な景観や黒石らしい資源を共有し、それぞれの役割に応じて参加と協働を進め、みんなで積み重ねながら、良好な景観づくりを目指します。また、観光に訪れる人との交流を深めるなどにより、景観づくりの活動の発展を目指します。